

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392800050		
法人名	矢部開発株式会社		
事業所名	グループホーム緑仙館		
所在地	熊本県上益城郡山都町仏原9-11		
自己評価作成日	令和4年9月1日	評価結果市町村受理日	令和4年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道218号線沿いに位置し近所に清和文楽館・小中学校や保育所・役場や図書館があり緑が多くホームより外の様子が見える。
それぞれのペースで一日が始まり好きなように過ごしていただいている。職員は明るく入居者の生活のしやすさに配慮し提供できるサービスの質が向上するよう努力している。
御家族への生活の様子を詳細に伝えることを心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ感染症の収束が見えない状況でも開放的でゆったりとした環境の中で、感染症対策を徹底し、可能な限り外気に触れるよう支援し、花見をはじめ、体験学習の生徒との散歩等世代間交流に取り組んでいる。入居者の出来る力を発揮させていることは、割烹着で調理に関わる入居者や、畑の手入れや草取り等に勤しむ入居者等に表われている。また、「個」に焦点を当てていることは、「寝とってよし、起きとってよし」の入居者の一言にあり、里山の地で最期まで一緒に過ごすことを支援しており、広報誌への家族による追悼文に表われており、家族から絶大な信頼を得たホームである。継続して発行する広報誌は地域への啓発としての役割を果たし、この地に確固たる基盤を築き、管理者を中心として意思疎通も良く、自然体での余裕あるケアや全員で討議しケア向上を図る等志向高くして臨むホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めの会議で必ず議題としている。理念は「仁徳」思いやり・慈しみである。	開設時から“仁徳”を理念として、日々慈しみと思いやりのあるケアを行うことを全職員が共有している。年度初めには全体会議の中で重要事項説明書や倫理・法令及び行動指針をもとにした研修による振り返りと意識強化を図っている。管理者を中心として自然体での明るいケアや干渉すぎないケアは入居者の自由な生活や得意分野を發揮した生活に繋がり、入居者と職員が仲睦まじい生活ぶりを垣間見ることがホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所への買い物や広報紙配布に利用者さんと出掛けたり職員は地区の清掃作業に4月・11月と参加している。	継続しているホームの広報誌配布や清掃活動(用水路掃除等)に参加しながら馴染みの関係性を継続している。これまで通りとはいかないものの、中学生の福祉体験や高校の実習を受入れ、世代間交流の一環となり、実習生との散歩は外出の一環や地域へ出かける機会に繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の認知症の家族会に声をかけていただき参加木認知症についてお話させていただける機会があった。中学生の福祉体験受け入れの予定があり、高校生の介護実習受け入れをした。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	何事も可能な限り状況報告し、構成委員さんからの情報もあり意義のあるものとなってきたように思うが家族の参加が現状困難であるが意見や要望を受け取れるよう工夫必要だと感じている。	役場支所や区長・民生委員・老人会や町議員をメンバーとしてまずは案内の中で参加・不参加とともに意見や質問を聞き取りして開催している。今年4月のメンバー変更に伴い運営推進会議設置の意義等を説明している。運営状況等ホームからの報告の他、議員の参加は行政との橋渡しとなる等この会議の意義が發揮されている。	家族は自由参加としているが、平日の開催により参加は難しい状況にある。外部評価結果は家族に報告されており、広報誌を活用しながら運営推進会議での意見や提案事項等を記載する等検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	災害に関する避難についての講話依頼や事故連絡報告、運営推進会議への参加していただきながら連絡・相談実施できている。	運営推進会議を通じた意見交換や自然災害についての講演(役場職員による)、台風接近に伴い何かあれば一報くださいとの事前連絡が入る等協力関係が築かれている。社協からの相談により入居に至ったケースもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に一度、拘束に関しての勉強会実施。。生命に関わることでない限り拘束はしない方針である。自分がされて嫌なことは人にもしない。	管理者は不適切なケアを行わない事により拘束や虐待をしないことに繋がると指導している。外部講師によるズームでのセミナーを全員が受講し、不適切なケアの17項目をもとにした討議を全員で行っている。入居者の中には自由にホーム周辺を散歩される等束縛のない自由な環境にあり、職員が見守りを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	動画セミナー受講。介護ストレスではなく介護を通して自分にある感情に気づくことや不適切なケアが日常化し、エスカレートしていくと虐待の危険性が高くなるということを学んだ。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の勉強会し、制度の仕組みや内容を振りかえっている。現在活用が必要な入居者はおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	詳しく説明し理解されるよう説明努力している。契約前の資料として利用料金の詳細や必要な物など提示を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ渦でもあり家族との面談が困難にて手紙や電話での要望・意見の交換を行っている。改善点は会議に反映し実施するよう努め、運営推進会議で外部の方の意見いただき何事も丁寧に対処し運営につなげている。	家族には良い悪しにかかわらず事実を発信し、年1回のアンケート結果を参考にした勉強会を実施している。アンケートには職員の態度やホームの雰囲気、入居者の表情等を入れている。家族の知りたい思いに応え、入居者の言葉や表情を記して家族に状況を発信している。また、この事案が入居者の言葉を引き出すきっかけとして生かされている。	家族との良好な関係が築かれていることは広報誌に寄せられる家族の追悼文等に表出している。コロナ感染症が収束すれば、家族の顔合わせをまずは行いたいとの意向もあり、行事とタイアップした家族同士の交流会等検討いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日頃の会話の中で意見を聞き、要望や悩みも代表者と管理者は把握し反映するように努めている。	管理者は日々ケアに入りながら職員とのコミュニケーションを図り、毎月の会議の中で意見や要望・提案等を聞き取りしている。担当制とする勉強会は職員育成として生かし、役割のある態勢(感染症・緊急時担当等)も職員の自信になり、管理者を中心にあまり変わらない職員体制は風通しも良く、何事総意での決定としてホーム運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議の時間を長く設ける事で、会話をして意見を聞き働きがいのある環境づくりに努めています。研修の参加や資格取得を意識し、職員の向上心とやりがいに繋がるよう支援していきます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ渦の影響で外部研修は困難であるが、管理者や職員の自発的な学習意欲が高いため、オンライン研修やライブ配信研修を積極的に取り入れて、個々の育成をはかれる努力をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会・町の介護支援専門員連絡会・清和・蘇陽地区地域ケア会議に参加し、その中での情報交換や勉強会にzoom参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	経過とともに、ご自身に任せてよいことと介助が必要なこと。苦手なことを本人に聞きながら提案させてもらったり希望聞いたりしながら関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケース担当から詳細に様子を伝えて、本人の思いと家族の意向要望を聞きながら他の職員へも現状を伝えながら経過をみていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に情報提供を受けていることの内容と入居時の状況変化はないか、本人や家族の一番の要望希望を伺いながら本人にとって大切なことを優先していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人はどうしたいのかなあ？という気持ちを一緒に過ごし探している。わかりたい わかってあげたい 共感したいと思っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出・外泊と家族関係が継続でき、協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	直接面会は出来ないが家族以外の知人の方が来館された際、窓越しや透明なシート越しに会っておられる。また、来館されるよう声かけている。	家族や知人の訪問に窓越しや玄関でのシート越しの面会としているが、コロナの状況により見直している。自宅へのドライブで愛犬と会う機会を作ったり、文楽邑への散歩、これまでお付き合いのあった近隣の方の訪問と、コロナ禍でも馴染みの関係性を継続させている。職歴に応じた支援や晩酌(家族の持込み)は健康のパロメーターとしている。入居者同士や職員とも馴染みの関係であるとともに、ホームの場所そのものが入居者にとっては親しんだ場所である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	相性のよし悪しもあるように思うが利用 者同士の関係を見守りながら媒介してい る。トラブルは避けられるよう援助。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に会いに伺ったり、ご家族が来館 されたりすることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	詳細を言葉にして伝えることが困難であ るので、表情・言葉・仕草から汲み取れる よう関わりながらご家族に相談している。 可能な限り意向がみえたら対応するよう にしている。	入居者は良く話をされる方も多いが、職員が 選択できるような声を掛けると具体的に自分 の考えを伝える方や、言葉のコントロールが 難しくても職員が表情や仕草などにより推察 しながら、本人の思いに寄り添っている。職 員が応えやすいような声掛けにより思いを引 き出し、不明な場合には家族から聞き取り し、本人の思いに寄り添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居前にケアマネジャーより情報提供受 け、ご家族より家族構成・生活歴の情報 聞き取りしている。入居後昔のエピソード や思い出されたことをお聞きすることも多 い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	体調観察から始まり覚醒に応じて動かれ るままに見守り本人のペースで1日が始 まる。時間に追われることなく本人のリズ ムで過ごされるよう見守りながら出来るこ とは促しながら援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は主に計画作成担当が担当が計画時ケース担当よりご家族の意向やモニタリングを行ってもらって、計画作成後会議にて他の職員へ内容を伝えている。	本人・家族の意向を具合的にプラン策定に反映させている。入居者の声に対して転倒予防を短期目標として、入居者の行動に付き合うことや機能低下防止に向けた個別計画、職歴や出来る力の発揮等個別的なプランを作成している。3ヶ月毎にモニタリングにより継続可否を見極め、半年毎には再作成している。運営推進会議の中で介護計画の見直しやモニタリングの件数を報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや思い等を記すことが少ない。現実を記録することだけにとどまっている状況である。気づきや思いを会議で発言する、記録することを習慣にし介護計画に反映できるよう努めたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方にて対応できない市内の受診や入退院の手続きや送迎。帰宅要求時の外出などできる限り家族の代行できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある商店・病院や診療所・歯科医院・図書館・理髪店・飲食店・ガソリンスタンドなど広報紙配布しながら馴染みの関係性になるよう関わっていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の介助はホームなのかご家族なのか、ホームがする場合でも、家族の同席必要の有無など検討したり主治医への報告・連絡しやすい。相談もしやすい。受診結果ご家族へ報告している。	緊急時や夜間対応などの面から家族の意向のもと全入居者が、公立の医療機関をかかりつけ医とされている。受診は基本的にホームで対応しているが、家族の支援も行われ、状態を伝えながら結果を共有している。職員は一日3度(6・15・19時)の検温や、日頃から入居者の発せられた一言、健康状態などを家族へ伝えており、相談にも応じている。歯科は地域の歯科医へ必要時に通院している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	判断に迷ったりしても相談しやすい。訪問看護は何度もターミナル期に協力関係があるので信頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ渦であり対面での情報交換や入院先への面会が出来ず電話での連絡が多いが相談しやすい関係である。医療・ご家族・ホームと情報や連絡に行き違いがないように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化の報告をして。ターミナル期に関しては主治医より説明していただき予測できる今後の事など家族及び医療とホームと連携し検討しながらすすめている。 経口摂取出来ない状態になった時の要望など伺い経管栄養希望時はホームでの対応ができないことの説明をしている。	入居時にこれまでの事例を伝えながら、ホームに出来得る看取り支援について説明している。重度化・終末期の状態になった場合、ホームでの最終や医療支援を望まれるか等方向性について話し合い、主治医や訪問看護等と連携し、職員のチームワークや経験を活かした緑仙館ならではの最期を支援している。支援後は本人を偲びながら振り返る機会を作っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は会議にて振りかえるようにしている。初期対応の手順は勉強会にて実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時避難訓練年に2回・水災害時避難訓練年に1回実施。緊急連絡網に近所の方へ依頼協力お願いしているが訓練参加は実施できていない。	年2回の火災避難訓練や1回の水害避難訓練を実施している。消防による立ち入り検査や定期的な消防設備点検、日々の安全点検など有事に備えている。また、行政より自然災害に関する講話がが運営推進会議の中で行われている。備蓄はリビングで管理し、職員も周知している。地域住民の参加による訓練の開催を課題としている。	今後、課題としている地域住民や家族にも参加を呼びかけ、一緒になった訓練の実現を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にプライバシーはあり、声掛け時の声の大きさに配慮出来るよう努力している。慣れが一番怖い。プライドが保持できるように注意している。	ホームは規制のない自由な生活を支援しており、自由に散歩に出る入居者等あるがまを受け入れている。、呼称は苗字や下の名など反応なども見ながら対応している。一人一人のペースに応じた暮らしが出来るよう努めており、「寝とってよし、起きとってよし」と、ホームでの生活を発せられる入居者の一言に、自由に気ままな生活であることが表われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	動作や行動を汲み取りながら、どうしたいのか想像しながら自己決定できるよう支援している。援助する側が決めつけないように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の時間やタイミングに合わせてもらうのではなく、本人のペースに職員が合わせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧されたり、鏡の前で髪整えたり髭剃りしたり。、自分で着るもの選ばれたり出来る方は見守っている。出来ない方にはこちらから気遣うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日は好きなものを担当が考え準備したり、台所で手伝う利用者がおられたり、食事形態の工夫や下膳が出来る方はやっていただき見守っている。	週1~2回地域スーパーなどからの食材購入や、家族からの差し入れ、職員の持ちよりなどを活用し、手作りを提供している。入居者の中には割烹着姿で自発的に料理に関わる等役割を発揮されている。誕生日には本人や家族にも確認しながら希望のメニューを提供している。また、火曜日はお楽しみメニューとして、冷蔵庫の中を確認しながら職員が腕を振るっている。食中毒についても発生や予防について研修会を実施し、安全な食事支援に繋げている。	個々の嚥下状態に応じて、ミキサー食の準備や必要な介助に努め、職員は現在、感染症への対応から時間をずらして食事している。個人用のおやつボックスには、家族から届けられたお菓子などが入っており、好みのおやつを楽しまれている。今後も入居者の楽しみとなる食事支援の継続に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事形態・量・時間・回数。スプーンの大きさや形など検討したり、摂取量の低下や体調に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケア習慣としている。歯ブラシのや舌ブラシ等その人に合うものを選び、義歯は洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本オムツはしない。下着だけの方・下着にパットの方・夜だけ紙パンツ 常時紙パンツの方。歩行や起立不安定な方はポータブルトイレ使用し介助や援助している。	個々に応じた排泄支援に努めており、現在7名の方が布パンツで過ごされ、2名の方がリハビリパンツを使用されている。ポータブルトイレは歩行状態や時間帯に応じて支援している。可能な限り自然排便が出来る様、水分や運動と、個々に合った乳製品や野菜、果物を取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヨーグルト・バナナ・野菜ジュース・根菜類水分と運動。何がその人に効果がみられるのか観察しながら取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めているがタイミングをみて案内し拒否時は足浴し無理強いをしないことにしている。誘い方や入りたいタイミングの把握不足もある。	基本的に1日おきの入浴を支援している。職員は1対1でゆっくりと入ってもらえるよう心がけており、「今日はかんのえ〜！」等、感想を言いながら楽しめる方もおられるようである。シャンプーなどは好みの品を個人で用意されている。ホームでは職員がチームワークでターミナル期に入られてもぎりぎりまで入浴を支援し、清潔保持と少しでも気持ちの良い時間を持ってもらえるようにしている。	浴室内も清潔に管理されている。更には窓の棚に置かれたシャンプー等は別の場所に移動することで、すっきりとした空間になるよう検討いただきたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ウトウトやうつらうつらし始められたらベッドへ案内したり、ゴソゴソとされていても寝る事に誘導したりせず見守っている。昼間眠られる時は暗くし静かにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬はファイルに綴じてあり誤薬しないよう与薬前に確認している。状態に応じて主治医に報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	館外散歩・洗濯物干しやタタミ。台所での作業。読書・花の水やり・草取り・晩酌。一緒に歌謡曲聞いたり歌ったり、あやとり・卓球・おじゃめ投げをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と図書館や書道教室や外食。家族と市内へショッピング。職員と花見や自宅へドライブ。地域方より家族と職員との外出が多い。	感染症の収束が見えない中でも、敷地の散歩や花の水やり、草取りなど個々に応じて支援している。また、家族との外出、自宅へのドライブや以前飲食を楽しんだ集会場所を訪れたり、菖蒲等の花見学等の外出を支援している。受診も外出の機会となり、仲良い入居者の「まだだろか」の言葉に受診を心配する思いや帰りを心待ちにされている様子が窺われ、お互いの存在が毎日をより豊かにしているかのようである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は金庫で管理しており所持は控えさせていただいている。盗られた・失くしたを避けるため。預かっている場合は出納帳管理している。買い物時は職員が付き添い支払いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話をかける。手紙が届くも書けない場合は代筆し写真を同封したりしている。希望がなくても家族と会話出来るようかけている。テレビ電話も利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓も多く明るい構造でシンプルである。玄関には観葉植物置き。館外は窓から桜の木や花壇が見え季節を感じるができる。台所も浴室・トイレもわかりやすいと思われる。	コロナ感染症への対応として、ホーム内は掃除や換気に努め、ノロウイルスと同様の対応と、汚物も新聞、ビニール袋を使っての始末を徹底している。職員と1対1での足浴マッサージ等日常の穏やかな時間を見ることができた。また、アロマオイルの匂いが漂い、台所からは調理の音や匂いも入居者にとって日常の光景となっている。食堂を兼ねたりリビングは開放的であり、冷暖房への配慮には苦慮することもあるが、館外の様子を居ながらにしてみるができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人や数人で過ごせるよう椅子やソファを置き好きなように気の合う人同士や一人で過ごせるよう多く椅子を置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されていた物を持ち込んでいただき、生活動作の動線に応じ物の配置やベッド柵やバーの位置を工夫している。	普段自宅で使用していた品物やテレビなど本人にとって必要で安心につながる物を持ち込んで欲しいと伝えている。お気に入りのぬいぐるみがあることで安心される方、長靴・手袋など作業用の品を準備され敷地内の草取りや野菜の管理に勤しむ等生活歴に応じた持込み品や、安全な歩行や移動が出来る様、動線を考慮した配置等に職員の工夫が見られる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすく張り紙や名札や飾りがされ屋内はバリアフリーであり、歩行途中にどこにでも座れるよう椅子を多く配置している。		